

029
421
8



029
431
1



下は通に誠意ありて今
 是れまは統まら法丸のたを却の
 ことひしう好まら下風流のそに
 志す得るを懐きとわたりてわが法樂
 園時よりはわが法を法に研と
 不懐しあわめつゝかめらとて
 序一



諸氏続究可集
 流者九尾同集

1873

天順元年 辛卯十月
天利院諸九藏天禪尼

権は親しむ事ならぬ身とをばなれ
ころねをたれしちのわらわらわらわ
つぼみしわらわらわらわらわらわ
たふねうらうらわらわらわらわ
きりりりりりりりりりりりりり
たふねうらうらわらわらわらわ
まひまはらわらわらわらわらわらわ

なかりてはまの長な〜〜〜〜〜
あはれはまのいまれ〜〜〜〜〜
ぬ〜ぬのま〜〜〜〜〜
おな〜〜〜〜〜
な〜〜〜〜〜
あ〜〜〜〜〜
ふ〜〜〜〜〜

毎日の生活の
記録

切刻三百味の外に木のきり
し
福心より
は
か

秋の気配は
秋の気配は

浦島太郎の
浦島太郎の

春の気配は
春の気配は
春の気配は
春の気配は
春の気配は

秋の気配は

夕暮の気配は
夕暮の気配は

秋の気配は
秋の気配は

何れと云ふ事なきにや
しらしき事なきにや
苗代わ田んぼ
白道わ中
うかきとの
はあかの
あか

とていへば
とていへば
雨
神
とていへば

ふとさういぬさうしんわ猫の書
ねの片はあはねはらうみ 唱

あつしー乃妻やうの後の校

作はらう九十九歳に位はら

やうのさうさうさうのさう

りーさうさうさうさうさう

なすもさうさうさうさうさう

りやわさうさうさうさうさう

あのみい ねさうさうさうさう
わさうい 旅さうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさう

はなをさうさうさう

七の二のさうさうさうさうさう
ねさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさう

春に紅い橋

町道を橋よりよきつゝこゝろは
卯のよやよのあまききよは
城きくわううきんはるるや
ほあふの目もなるを 紅牡丹
扱てあききくわうわうわ
花

陰謀

あききくわうわうわうわ
花

舟結子の背よりこゝろは
登籠のさうわわを結こゝろは
夕の月や一日の息ふはとつく

はる舟の句意

病中消滅と云

是の身結病も結こゝろは
我座やまの仲間うらまふ
於れ 春にあききくわうわ
花

あきのこ結はる花の石乃

花

汗ながるるまのふもをわぬるる日
暑く日や寝るまふ人をおさるる
うらまのなまはるるしとせはるる

泣く

きくしとて汲ては控つ水車

秋来ぬとすち小家と櫛はるる
そのふもはまはるる秋はるる

いづまなくはつまゝとせはるる
あまのせや花もはるるわらわら
七夕や中々はるる川板
舞はるる人なまはるる
まのこまもはるる通る人なま
扇もはるる蝶はけせのりなま
ちりちりちりちりちりちりちり
あまのせや花もはるるわらわら
あまのせや花もはるるわらわら

なま

下ひ人のいんてまかくし
初一をなうた即(り)雨のせ
橋妻やあなまの樹結成るる
力よかしてわらふるさくらさ
孤遊の歌ははる位而せある
春よりせこの年言ひ力よとに
名もわらうとそり篇結成るる
めいさつや清さ位たのうとれと

席の戸をあなをさるし力
つひにわらふとわらふる
そつはさう歌の鶴子は師このうら
まつしはわらうとわらふ
力と骨とあなをさるし力
後さくらやわらうとわらふる
十、夜のはらや照相をさるる
老ききく板はやさしほの力

月夜多門田と立や麻呂と

松の

鳴しや松のふよそわやりの
あはれ物清くさやをえんて
影はふやをていぬいうきう守
まゝのくたかの中はかたまり
都くさや此人の静と静のふ
う松や筒と一本はかたまり

よるひこころをまよへ
信松

あつちのふたつねごとくわらな
くおほえそとてん下いてはくさ
筑紫はつとつねむとらふのうか
なつとれく玉井庵のあつち
さしつひりやまて

わらわらし
のこし
のこし

姫狩山

くま、まて田あね屋種むらもや
アねねも二麻ね麻はさう一ねね
ひ(ま)か、一うまかひ
ねこれね

ありおこし一あねとあまそつ物
一ねね

三羽鳥

細^十くしきまのまをれをさう向て

地きば一ふ本のあねまやね
あねねしねさまそつりや水車
さしあやはあねねをねをてな
あねねを水とあひしきせん花
あうんくあねまをひつうりま
あねねのうはまあねのうねねし
あねをさうあねねや梅のうね
あねあねあねまをさうあねしとあね

ふるー新あ文下新わー後
正かきして

冬あを信こころいむのは日さや
不おのせくかかいらかろ鳥のま
はまこーはあ新小橋そ花野原
候らうてるとゆかかろ色のけり
林さ何やさよしまこころむ
煙さ新こころあさるあさる
我あは

この戸もまろく何ふやを
窓のまもあはたさふーあか
けーまや水子新花あは
小池よこ女がと男はやきーの
梅さ庭そ誰か思ひ子や
野原や去さあはく有花
初あそよよよと釣瓶
六条や足徳つーくささ乃

初言や尾ど能尾はほきてお
磨ひつらきさ世能中やと都のち
わさ人なこし記さう言さ能
風之友士の世と回思なうた
忠言さつそ縁いこほさうつら
縁いほまし〜
林さうう新〜とえ新さう
ゆりさう軒端能言と二言し

うせいの、うさしほささぬ煤抄
吾、誠待さるるをさたがうあう現
東のうさしほささぬ
あうのうまて
んさうさう女さうんや鏡山

明和十と方の比なきは 法丸
とのさう、旅の終りをたふあはね
乃て色くさるるのさうりあつら
むさう、旅のさうりわ、とさう
がわぬさうりさうりさのあつら
しはさるる我うせうりさうり
そゆへ句はさあはむつらさ
なうりさうりさうりさうり

なすれやさうりさうりさうりさ
人々さうりさその句はさうり
さうりさうりさうりさうりさ
さうりさうりさうりさうりさ
さうりさうりさうりさうりさ
さうりさうりさうりさうりさ
さうりさうりさうりさうりさ
さうりさうりさうりさうりさ
さうりさうりさうりさうりさ
さうりさうりさうりさうりさ

志いふはあつちをわらふその心
 をこのふまき居たわし水水守
 まるまると板よよとたかたか
 ち、たのまうらうははる
 遠くをまじやうえは給の
 こむくしのそん

汎ふ世の茶を
 五七人共両書

蕉門野坡流淋楷書目録 永春町公條上野 板行

聖徳太子 寺田津御代集 洛 風之撰 四冊
 柶の書 武州筑文 備後福山 百梅撰 一冊

門司親 豊前 程十撰 二冊
 梅久 備後福山 素津撰 一冊

教の弁 筑後 木而撰 一冊
 竹の光 豊前 俗澤 百越撰 一冊

向日品 肥後 素朝撰 一冊
 登り塚 近畿 釣月亭 追善 梅撰 一冊

初湯堂 筑前 桂立撰 一冊
 かれ藜 洛 文下撰 一冊

門子 同 免職撰 一冊
 紫れ若紫 筑前 若屋 素朝撰 一冊

三日の宿 野桑 追善 梅從撰 三冊
 宿の花 都外 子追善 同 里丹撰 二冊

十三題

浪花 梅徒撰 五冊

紫の海より 浪の月

筑前 宇白撰 二冊

窓の春

日 浮風撰 二冊

龍の巻

小文字追善 江橋撰 一冊

蓬の巻

備後福山 市嵐子追善 秋葉撰 一冊

小の巻

小文字追善 江橋撰 一冊

窓の巻

備前中 如芥 賈千選 東歩 一冊

新門灘

吉桂撰 二冊

雨の巻

備後福山 登福撰 一冊

掃の巻

白草 白草庵撰 一冊

舟の巻

正風指南 九十九卷 風之撰 一冊

杖の巻

宿中連 六雅撰 一冊

朱白集

芭蕉翁 石碑集 三冊

子かてん

江橋撰 一冊

芭蕉翁舟の巻

一冊

御月

藤本和書撰 一冊

竹の巻

華所廣編 風律撰 一冊

名所の巻

藤州松 斗城撰 一冊

養生の巻

笠前福岡 器木撰 一冊

之巻

筑前福岡 江橋撰 一冊

湖の巻

洛 諸九撰 一冊

賞の巻

筑前和合 市邊撰 一冊

十日の巻

筑前和合 遊五撰 一冊

雪の巻

筑前福岡 本原撰 二冊

舟の巻

日春吉 計書撰 一冊

鏡の巻

筑前和合 金桂撰 二冊

土の巻

江橋撰 隆文下撰 一冊

紙魚日記

江橋撰 一冊

舟の巻

慶長 水容撰 一冊

秋の巻

筑福 似及 倉曙 一冊

厚の巻

結后 殿中 冬牙撰 一冊

結の巻

筑前和合 文雅撰 一冊

珠光時雨

珠光時雨

一冊

曉のしら

五調撰

一冊

和乃落

和乃落

白帯玉帯

珠光時雨

二冊

秋乃ゆふ

秋乃ゆふ

折躑躅

珠光時雨

一冊

春乃あけ

春乃あけ

折

珠光時雨

一冊

秋風の記

秋風の記

笠乃あけ

珠光時雨

一冊

和の輝

和の輝

音の梅

珠光時雨

一冊

春乃あけ

春乃あけ

あけぬい

珠光時雨

一冊

入梅

入梅

浦乃去

珠光時雨

一冊

けさる集

けさる集

諾九尼白集

珠光時雨

二冊

春乃あけ

春乃あけ

雨乃とら

珠光時雨

一冊

野坡吟

野坡吟

浦乃去

珠光時雨

一冊

諾九尼集

諾九尼集

雨乃とら

珠光時雨

一冊

野坡吟

野坡吟

浦乃去

珠光時雨

一冊

諾九尼集

諾九尼集

雨乃とら

珠光時雨

一冊

下志心持

